

2024年度「金城学院データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に係る  
自己点検・評価について

| 自己点検・評価の視点                   | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等                                                                                                                                                    |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学内からの視点                      |                                                                                                                                                                                 |
| プログラムの履修・修得状況                | 共通教育委員会において、LMSを用いてプログラム対象科目の履修・修得状況の点検・分析を実施し、履修データ分析システムの活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題提出状況を把握し、評価できる。                                                                                |
| 学修成果                         | プログラム対象科目の履修率、単位修得率、成績分布はLMSを確認することで把握できる。また、クラスごとに実施している授業評価アンケートにより、学生自身が「新しい知識、技能、あるいは態度を身につけるのに役に立ったか」、「授業全体についてよく理解できたか」などの意見を集約する。これらの結果を分析することで、プログラム対象科目の教育内容の改善に活用できる。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度        | クラスごとに実施している授業評価アンケートにより、学生自身の自己評価や、学生の理解度・満足度、あるいは授業の進度や教員の授業に対する取組み方について意見をまとめて分析を行う。アンケートを継続的に実施し、授業改善に活用していく。                                                               |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度     | アンケートをもとに、共通教育科目の紹介冊子の記載内容をアップデートして新入生に受講の意義を今後も伝えていく。                                                                                                                          |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 本学では令和6年度からプログラムを開始したが、必修科目であるため同年度入学者全員が履修登録しており、令和7年度以降も必修科目とするため、完成年度には履修率が100%となる見込みである。                                                                                    |

| 学外からの視点                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価                                                                                                       | 令和6年度末時点では、プログラム対象科目を修了した学生はまだ社会に輩出されていないため、現時点でその進路や活躍状況などは未定である。修了者が輩出され次第、進路の調査や就職先に対する活躍状況や評価についての調査を行うことにしている。                                                               |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見                                                                                                   | 産業界で利用されているAIの技術を授業で紹介することで、学生に産業界の視点を意識させることができる。例えば薬学部では、新薬の創薬においてAIを使って最適な分子構造を推測する技術が急速に発達していることや、国際情報学部では生成AIを活用した画像生成が急速に普及している例を紹介し、学部・学科に応じた学生の興味を引き出すようにしている。            |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること                                                                                         | データを取り扱うための基本事項を学んだうえで、実データの取り扱いには降水量や気温などの気象データを利用している。さまざまな分析ができるだけでなく、身近で実感しやすいデータであるため、学生が学ぶことの意義を理解しやすく、また学ぶ楽しさを持ちやすい内容となっている。                                               |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>学生による授業評価アンケートを実施して寄せられた意見を分析すると同時に、授業担当者側からの意見も集約して、学部・学科の特性を加味しつつ、より分かりやすい授業とするよう努力していく。数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 東海ブロックの拠点校「名古屋大学」の支援を受け、より教育効果が高まるよう教育内容を継続的に見直していく。</p> |